畑作業について理解を深める「畑の学校」を開催

女性部能代支部では、支部のサークル活動として「畑の学校」と題した講習会を４月５日に開きました。

講習会には部員約20人が参加し、全農秋田県本部の伝農和比古氏と㈱高井南茄園の金野豊秋氏を講師に招き、畑作業が本格化する時期に合わせ、土壌や肥料についての基礎知識や品種選びのポイントなどについて学びました。

伝農氏は、土壌・肥料の基礎知識について説明し、土壌の有効成分で重要なのは窒素であることに触れ「最初に窒素を畑に多くまくことがことが重要。追肥でまくと効きが悪くなる。土をしっかり作ればおいしい野菜ができる」と説明しました。また、安全な農産物生産のために、「農薬を使用する際は、農薬ラベルの確認をしっかり確認してもらいたい」と呼び掛けました。

金野氏は、発芽を左右する要因について説明し「地温が15℃を保てる５月中旬以降が種まきに適している。思いつきの栽培ではなく計画的に作業をしてもらいたい」と述べました。その他にも、おいしい、栽培しやすい野菜の種を紹介し、部員らは講師の話に耳を傾けながら、熱心にメモを取っていました。

農業の大切さを学ぶ

食の大切さ、食を支える農業の大切さを育てることから知ってもらおうと、能代市立浄城西小学校５年生75人を対象に農業体験学習を開きました。この体験学習はＪＡ営農部近くの畑を利用して年４回行われ、ＪＡ女性部員やＪＡ営農指導員を講師に、様々な作物の植え付けから収穫までを体験します。

４月19日に行われた１回目の農業体験では、児童や女性部員、営農指導員ら総勢約90人が参加しました。佐々木女性部長は「野菜作りを通して、食べ物の大切さ、命の大切さを学んでほしい。女性部員と一緒に定植から収穫まで力を合わせて頑張りましょう。」とあいさつ。

←ひっぱり君で定植作業を行う児童

その後、圃場に移り、マルチ張りをし、ジャガイモとネギの定植作業を行いました。ネギの定植では全児童が、専用機械「ひっぱり君」を使った定植に挑戦し、体験した児童からは「重かったけどまっすぐ植えることができた」、「ひっぱるのが楽しかった。大きく育ってもらいたい」といった感想が聞かれました。次回は６月上旬の開催を予定しており、カボチャとサツマイモの植え付けを行います。